

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 31日(予定)

事業所名 コロニー児童デイサービスにしはら

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	1	利用人数に応じて職員を配置しています。	スペースは十分ですが、デメリットとして死角となる場所があることが課題として出ています。改善策として職員の立ち位置の把握を徹底していきます。
	2	職員の配置数は適切である	8	1			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	5	3	利用者に応じて障壁が取り除けるよう配慮しています。	現時点ではトイレはバリアフリーではないです。必要に応じて改善していきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	3		毎日、職員の連携ノートを活用し児童の様子を職員一同で把握しています。	PDCAサイクルに慣れていない職員に対して勉強会を開き、職員が意見を出しやすい様に工夫していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	2			毎年お答えいただき感謝しています。これからも貴重なご意見を業務改善につなげていけるような事業所を目指していきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	3	2	自己評価の結果を全職員で課題のすり合わせをします。	ホームページの公開場所がわからない職員がいたので、再度一緒に確認します。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	6	1		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	2		今年はオンデマンドでの研修を行いました。	職員の資質向上の為、職員自身のスキルアップ希望の意見を参考に研修を予定しています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9			みんなで話し合い活動内容を立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1		児童にも意見を聞いたり工夫して、マンネリ化しないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9			特に長時間の利用日は一日のスケジュールを細かく設定している。	児童が入室してすぐ目につく場所にホワイトボードを設置しスケジュールを記載しているが個別の支援についての個々のスケジュールも必要と考え、検討中です。(現在、個別支援の内容は口頭で伝えている。)
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	3		その日のリーダーを中心に連携をとっている。	役割分担はしているが、臨機応変な対応が必要な場面も多い為、その都度、職員同士のこまめな声掛けや連携を継続していきます。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9			個別記録をつける際に記入者が偏らないよう配慮している。	支援後、個別記録を全職員で担当し、意見交換しながら記録をつけ、情報を共有しています。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1		記録の振り返りをモニタリング時に再度行っている。	記録は管理者がチェック。支援中・支援後でも気づきがあった際は、その都度記録できるよう個別記録を使用している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5	4			課題として短時間での複数組み合わせの支援について個々にあった支援ができるよう検討していく。
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	2		学校からだけではなくこちらからも情報共有を発信できるよう心がけています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3	3		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	1	1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	3			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	8		コロナ禍でできませんでした。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		8	1	西原町の連絡部会から参加しています。	協議会へも積極的に参加できるよう検討しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	5			
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	4		コロナ禍で開催できていません。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	2		
	35	個人情報に十分注意している	9				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	4		
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2			職員と保護者によって周知の差がみられたので、再度マニュアル作成を検討します。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1		今年度は実際に119番通報での訓練を行いました。	年に2回行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	3		2月に2回に分けて実施しました。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	3			身体拘束対象者がいない事と、児童に対する身体拘束のラインが難しいとの意見がでたので、事例等を用いて研修等を行って行きます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	3			ヒヤリハットに対する意識を高めていくことが課題。口頭での連携ではなくヒヤリハットの記録、対処方法を全体で再確認します。